

大豆

吸実性カメムシ類

発生の動向

- 1 令和3年は、8月上旬(開花期)以降に発生が見られ、9月下旬には程度が高い圃場(圃場率20.0%)が見られた(図1)。
- 2 子実調査では、発生圃場率は87.9%(平年81.8%)で平年並だったが、発生程度中以上の発生圃場率は27.3%(平年11.7%)と平年より高かった(図2)。
- 3 吸実性カメムシ類に加害された場合、着莢期～莢伸長期は落莢、莢伸長期～子実肥大初期は不稔、子実肥大期～収穫期は稔実被害粒(不整粒、変形粒)となる。

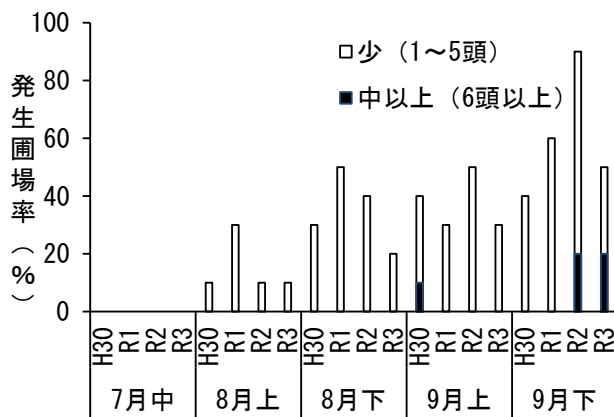


図1 巡回調査における吸実性カメムシ類の発生圃場率の推移

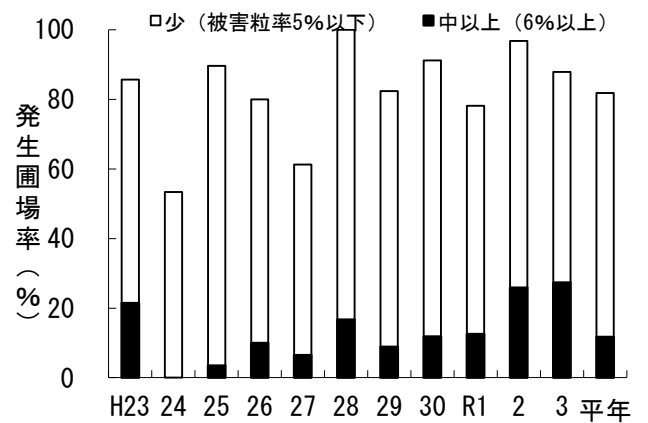


図2 子実調査における吸実性カメムシ類の発生圃場率の推移

防除対策

- 1 開花後期～子実肥大中期に1～2回、薬剤防除を実施する。
- 2 防除の際は、大豆の莢に薬剤が十分かかるように散布する。